

高木仙右衛門に関する研究

高木 慶子 著

「覚書」の分析を中心にして

▶ A5判・228頁／定価 2,100円 (税5%込)

ISBN978-4-7842-1684-0

江戸時代末期～明治初期に起きたキリスト教信徒弾圧事件「浦上四番崩れ」。中心人物である高木仙右衛門の「覚書」を分析、宗教学・歴史学の視点から、信教の自由獲得に果たした役割を論証。仙右衛門の曾孫による、キリスト教史研究。

内容目次

第1部 本文編

第1章 国預け

パリ外国宣教会と大浦天主堂

信徒発見

浦上四番崩れ

「旅」

浦上キリシタン問題と国際世論

第2章 「仙右衛門覚書」についての分析検証

仙右衛門の生涯

「仙右衛門覚書」

見舞状

切支丹牢屋ノ唄

次男源太郎について

第3章 キリシタン禁制高札撤去の背景

――従来の研究の問題点を洗い直す――

従来の研究の動向

従来の研究に関する問題点の考察

信教の自由獲得のための真実の要因

信教の自由獲得のために果たした仙右衛門の役割

第2部 史料編

「仙右衛門覚書」

見舞状

切支丹牢屋ノ唄

「仙右衛門覚書」(現代文)

年譜

参考文献



たかき・よしこ…熊本県生まれ、聖心女子大学文学部心理学科卒、上智大学大学院神学研究科博士前期課程修了、博士(宗教文化)。現在、上智大学特任教授・上智大学グリーンケア研究所所長・「生と死を考える会全国協議会」会長・「兵庫・生と死を考える会」会長【著書】『死と向き合う瞬間―ターミナル・ケアの現場から』(学習研究社)、『大震災―生かされたいのち』(春秋社)、『喪失体験と悲観―阪神淡路大震災で子どもと死別した34人の母親の言葉』(医学書院)、など多数。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723

http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	高木仙右衛門に関する研究		本体2,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1684-0
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代 引 (書籍代+送料400円を現品と引き替えにお支払い)				

本書HPのQRコード

書店番線印

宣教と受容 明治期キリスト教の基礎的研究

中村博武著

日本におけるキリスト教の宣教と受容を新資料の検証を通して解明した力作。経典成立史、新造語の成立経緯などの原理的な問題から、浦上信徒総流罪に対する長崎外国人居留地の英字新聞や宣教師の書簡の解明、さらには上海租界地の宣教、内村鑑三と英字新聞の論争などを通して西洋文明が東アジアに与えた衝撃の一端を明かす。

▶A5判・610頁／定価 12,600円

ISBN4-7842-1025-3

明治期における不敬事件の研究

小股憲明著

天皇を中心とする明治政府の誕生以来、数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった不敬事件を、明治期について網羅。豊富な実例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係を明らかにしようとする大著。

▶B5判・576頁／定価 13,650円

ISBN978-4-7842-1501-0

※大阪川口居留地の研究

堀田暁生・西口忠編

安政6年から40年間存続した居留地の歴史。政治・経済・文化における影響を、研究会10年の成果をもとに究明した基礎的な一書。
【内容】川口居留地の形成とその特徴／大阪の居留地会議／外国商会と外債／川口華商の形成／内地雑居論と川口居留地／オランダ人工師たちと川口居留地／川口居留地のキリスト教と学校 他

▶A5判・430頁／定価 8,190円

ISBN4-7842-0875-5

キリシタン版「ヒイデスの導師」の原典的研究

近松洋男編訳

1592年、セミナリオ教師ペドロ・ライモンドが和訳、文語体のローマ字で印刷・出版し、当時のキリスト教布教に大きな役割を果たした『ヒイデスの導師』を、その原典フライ・ルイス・デ・グラナダ著『ヒイデスの導師大綱』（スペイン）から直接現代語訳し、詳細な註を付したのが本書である。キリシタン版に本書が加わり、国語学的にも貴重。

▶A5判・614頁／定価 17,850円

ISBN4-7842-0614-0

幕藩制国家の成立と対外関係

加藤栄一著

思文閣史学叢書

幕藩権力がどのような国際的環境のもとに国家支配の枠組を形成したのかを、「公儀」幕藩権力と連合オランダ東インド会社との関係史を基軸に、国際秩序の変動や東アジアおよびヨーロッパ社会の変革の過程の中に捉えなおした意欲作。

▶A5判・484頁／定価 9,240円

ISBN4-7842-0954-9

近世日蘭貿易史の研究

鈴木康子著

思文閣史学叢書

近世日蘭貿易における日本輸出商品の生産から販売までを、個別商品の輸出状況の調査、一定期間の輸出商品全体の把握、日蘭貿易状況に現れた国内外の諸情勢という三つの複合的な視点から詳細に追究し、近世における日蘭貿易の状況と推移を明かす。関係図表70余点。

▶A5判・480頁／定価 10,080円

ISBN4-7842-1178-0

長崎県教育史

外山幹夫著

都道府県教育史シリーズ7

各地域の特色ある教育・文化を紹介し、寺子屋・郷学校・私塾・藩校などの教育施設のほか、広く社会・宗教・産業教育などにもふれ、古代から明治前期までを扱う。各地域の教育・文化に貢献した人物をとりあげ、教育的事跡を紹介。付録として教育史年表・参考文献・地図などを収録。

▶A6判・318頁／定価 1,890円

ISBN4-7842-0378-8

※戦国大名の外交と都市・流通

鹿毛敏夫著

豊後大友氏と東アジア世界

思文閣史学叢書

西日本の戦国大名のアジア外交の実態とそこに潜む意識構造について解明するとともに、政治・経済・文化的にアジア諸国と緊密な関係にあった西国大名による都市・流通政策の実態を明らかにする。

【内容】西国大名と東アジア社会／戦国大名館の建設と都市／戦国大名大友氏の蔵経営／中世豊後府内の祇園会と大友氏 他

▶A5判・300頁／定価 5,775円

ISBN4-7842-1286-8

岩倉使節団における宗教問題

山崎渾子著

神道皇国主義を宣言しキリスト教禁制のまま諸国歴訪に出かけることになった岩倉使節団は、その後の明治政府の宗教政策にどのような影響を与えたのか、『米欧回覧実記』を中心とした使節団関係史料を読み込むことで検証する。

▶A5判・250頁／定価 3,990円

ISBN4-7842-1316-3

※近代日本と幕末外交文書編纂の研究

田中正弘著

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸本の性格、また徳川幕府外国方の編集構想から明治初期外務省の編集組織の確立過程、太政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめ具体的に考察。

▶A5判・480頁／定価 10,290円

ISBN4-7842-0958-1

西洋化の構造 黒船・武士・国家

園田英弘著

「蒸気船の時代」から始まった日本の近代化の特質と諸相を明かし、従来の近代化論に一石を投じる。
【内容】「極東」の終焉—黒船前史／蒸気船ショックの構造／海防の世界／郡県の武士／森有礼研究／西洋化の論理／E・S・モースのニューイングランドにおける知的環境

▶A5判・380頁／定価 7,875円

ISBN4-7842-0801-1

近世長崎・対外関係史料

太田勝也編

近世の長崎町方や対外関係に関する史料、「長崎御役所留」（国立公文書館内閣文庫所蔵）、「長崎諸事覚書」（同左）、「長崎記」（東北大学附属図書館狩野文庫所蔵）、「長崎旧記」（筑波大学附属図書館所蔵）の4点を活字化。詳細な注と解題を付す。「長崎御役所留」は長崎奉行所に受け継がれた文書・記録類の編纂物であり、唯一の現存史料。

▶A5判・728頁／定価 16,800円

ISBN978-4-7842-1362-7

※長崎奉行の研究

鈴木康子著

17世紀後期から18世紀中期の約100年間の、長崎奉行の職掌や幕府内における長崎奉行の位置づけの変化、そして長崎奉行自体の特質が変質してゆく状況を解明し、その背景となる幕府の経済政策の推移や、日本側の外国人に対する意識の変化などについても考察を加える。

▶A5判・420頁／定価 6,510円

ISBN978-4-7842-1339-9

※喫煙伝来史

鈴木達也著

南蛮人によってもたらされたタバコは、江戸時代初期に喫煙が禁止される程に民間に流行した。日本におけるタバコの歴史は伝来以来400年以上になるが、その伝来時期は今ひとつはっきりしない。従来の諸説を見直し、新史料を駆使することによって得られた新しい研究書。在野のタバコ研究第一人者である著者の10年に及ぶ調査研究成果。

▶A5判・360頁／定価 5,775円

ISBN4-7842-1018-0

九州の蘭学 越境と交流

W.ミヒエル・鳥井裕美子・川島眞人編

近世、西洋への唯一の窓口であった長崎及び九州各地で、人々が在来の学術とは異質な西洋近代科学にどう向き合い、学び取って、世のため人のために役立てたのか、あるいは来日した西洋人が、知的交流や技術移転にどれほど貢献したのかを、最新の研究成果に基づき、彼らの業績と足跡を通して明らかにする。

▶A6判・380頁／定価 2,625円

ISBN978-4-7842-1410-5

日欧のかけはし 南蛮学の窓から

松田毅一著

フロイスの日本史をはじめ、イエズス会日本報告集や南蛮史料の研究で知られる著者が、精密な史料研究の合い間に折に触れて発表した小論・エッセイを収める。両洋から照らし出された事実の数々が、史家の冷静な眼が、キリシタン時代の国際的環境、異文化の出会い、人々の姿を語る。

▶A6判・352頁／定価 2,940円

ISBN4-7842-0618-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。